

2019. 6. 22

畑 啓之

兵庫県里程元標に見る神戸駅周辺が明治期に中心地であった証

①→②→③は里程元標の移動を示す。



「史跡と標石で辿る日本の測量史」より

兵庫県里程元標

地図：神戸首部

J R神戸駅北の湊川神社表参道入り口右側にあります。地上高約4メートル、一辺30センチメートルの角柱です。正面は「兵庫県里程元標 神戸市相生橋西詰」、左右の側面は大阪府、岡山県、鳥取県など隣接府県管轄界までの距離、裏面には「明治四十三年二月」の刻字があります。

そばの解説碑によると1931（昭和6）国鉄高架工事のため元位置の相生橋から撤去され1960年（昭和35）元位置から西へ150メートルの現在地に移設されました。

（①から②への移動を言っています。現在位置は再度移動して③です。）

道路元標（Wikipedia）

里程元標

里程元標は、明治時代初期の里程調査のために定められた道路元標である。1873年（明治6年）12月20日、明治政府は太政官達第413号により各府県ごと里程元標を設け陸地の道程（みちのり）の調査を命じている。これによると、東京の日本橋、京都の三条橋の中央を国内諸街道の起程とし、大阪府と各県は府県庁所在地の交通枢要地に木標を建てて管内諸街道の起程とするものとされた。道路元標としての役割を持つものの、元来が里程標であるため、里程元標の位置から主要地点までの距離が尺貫法における里・町・間の単位で示されていた。